若し此白石たるものが無かつたならば朝鮮人は定めて日本を嘲弄することであつたらう、昨日知行を加増せられたのは尤も然るべきである、余五十年來未だ彼に似たる人を見ず、彼と會談する時には長く相對して居つても他のことは一切忘れて仕舞ふ、唯彼が退出してから後で疲勞を覺えた誠に老人になつて致方がない云々と、前關白基凞公のかく批評せらるゝところ最も適切なものであらうと思ひます、圭角なきに非ず惜むべしとの語も白石は甘受せらるゝであらうと信じます、白石と最も親密の間柄なる室鳩巣も利刀の磐根錯節に臨むに當り破竹の勢あるにより詞色の間に自から剛鋭果敢の氣が見えるそして謙退抑損の心に缺くるところがある之を察したまへと諫めたことがある、之も最も白石の急所を衝いて居るのである、先生の容貌もよく此氣質を表して居ます。

かく、才智と學問のあるに任せて政治の改革をなし、殊に國王の稱號を復興し、それから學問特に上古史の研究は頗る科學的でございました

から國學者流の人には甚く嫌はれた、又一方では藩翰譜は剽竊物だなどと云ふ評を立てる人もあり、政治上では老中などから惡く云はれ、鬼とまで憚られたのでありますけれども私が概括したところでは矢張り好い人物であらうと思ふ、其證據を各方面から五つ六つ云つて見やうと思ひます、白石全集中の諸書を見ますると、自分の先生であつた木下順庵先生のことをば何處に書いてあつても大抵單に先生と書いてある、即ち常に尊敬の意を表せられて居る、もとより自分の先生であるから先生と云ふのは當然でありますが、他の方面に圭角あり傲岸なる所あるに似ず言の順庵先生に及ぶ所は尊敬を表して居られる、將軍家宣公は、主君であり、又自分を信用して呉れられた人でありますから之に對して最も尊敬を表して居らるゝは申すに及びませぬ、次ぎに自分と將軍との間に立つて自分の意見を將軍に取次ぎ將軍の命令を自分に取次いで呉れ、萬事自分を引立てゝ呉れたのは誰かと申せば御側御用人間部越前守詮房であり

ます、故に此人を恩人として永く之を敬慕して居られますこの越前守は老中などよりも勿論實權の多かつた人でありまして或る一面らは五代將軍の柳澤甲斐守吉保と同樣にさへ云はるゝ人である、殊に物徂徠の如きは八代將軍に上書して間部に腹を切らせなければ政治の改革は出來ませぬぞと云つたといふ說のある程であります、けれどもそれは物徂徠の豪語であると思ひます、さて此間部をば白石はその折焚く柴の記の中に、世間では彼此云ふけれども、我が見るところでは殆んど君子人であると云つて其恩人をば譽めて居る、さうして其間部の死なれた後にその命日には何事を指措いても必ずその墓參をすると云ふやうな誠に優しい點がある、次に又友人に對して誼の厚いことは例の停雲集と云ふ一部の書を見ても分る、順庵先生に學んだ同門の友人、それが段々凋落して今は誠に少ない、昔のことを想ひ出して情に禁へない、故にせめてそれ等の友人の詩を集めて後に傳へやうと思ふと云ふので停雲集と云ふ詩集を作ら

れたのです、それには室鳩巣、祇園南海、雨森芳洲、三宅觀瀾、榊原玄輔、松浦霞沼、深見玄岱、西山訓泰、梁田蛻巖それ等を初めとして多くの友人の詩が澤山あります、殊に名高い話は自分が順庵先生に師事して居る時に加賀の前田松雲公に仕へないかと勸められた、ところが自分もその頃は窮して居つたけれども、同門の岡島仲通と云ふ人が加賀の人ではあり、特に親もあつて早く何處か仕へたいと糊口の道を求めて居ることを知るが故に、順庵先生に申し、自分は辭退して岡島をして仕へしめた、是れ白石先生が情誼に厚いと云ふことを示せる昔からの一つ話になつて居るところです、若し此時に、先生が倉皇て加賀へ行つて仕舞つたならば、加賀は大藩ではありますけれども今日贈位の恩典に浴するところの白石先生と云ふものは恐らくは此日本に出なかつたであらう、と申すのは、加賀の方の仕への途をば岡島仲通に讓つたと云ふことは順庵先生も大變に譽めてさて後に白石をば甲斐宰相綱豐卿に薦められた、これ

が後ちに五代將軍に繼嗣が無かつた爲めに幕府に入つて六代將軍家宣となつて白石を信任せられた人です陰德あれば陽報あり積善の家には餘慶ありと云ふことが即ち白石先生のこゝに實現して居ると云つても宜からうと思ひます、それから先生の手紙などを見ましても人に厚いと云ふことは解る、殊に門人などにも情誼に富んで居られたことは確かに證據があります。

かく偉い人であつて又性情の立派な人でありました、けれ共餘り政治上に得意になつて云ふことは必ず行はれ逃ぶることは必ず聽かれると云ふ時でありましたから少しく遣り過ぎられた傾きが無いぢやない、加ふるに六代將軍は、不幸にして僅かなる在世、三年餘で薨去になつた、次ぎの七代將軍も三年餘で薨去になつた、それから紀州家から八代將軍吉宗公が入つて幕府の政治をガラリと引つくり返された、即ち八代將軍の主義としては昔の家康公か又は五代將軍の始め天和時代の如く所謂武家

政治で簡にして要を得るを主とせられる、白石のやられた樣に學問典禮を事々しくし修飾をして京都の御所か關東の幕府かと云ふやうなことになるには大反對でありました、その武家政治の方針を取られて幕府の中興をすることになつたものですから白石先生はモウ薩張り用ひられないそれで小川町の屋敷も取上げられ一時深川に行き、また小石川傳通院の邊に行き、更に移つて新宿に住はれました、其時分の詩なぞを見ると大分不平らしく靑麥阡々秀、紅桃樹々春、烟中聽犬吠、似有避秦人、などといふ寓意のあるらしいのがあります、白石先生の末路はかく政治上からは棄てられましたが、世の中のことは禍福相糾ふものでありまして、白石先生の政治上不幸が我々の爲めには大變な幸福であります、若し此時に白石先生が退かれずして、依然として得意の人間として居られたならば、白石先生に對して、我々の感謝の念が幾分か減じないくちやならぬことがあります、それは何かと云ふと先生の折たく柴の記であります、

折たく柴の記は自分が斥けられた後に、生前に得意であつた時のことを後に書き遺さうとして自傳を書かれたのである、一種の懷古錄である、其折たく柴の記と云ふものが、六代將軍七代將軍二代の間の日本歷史特に幕府の歷史を知るところの有力なる材料である、この折たく柴の記が無かつたならば六代將軍七代將軍の頃の內密の事を我々は殆んど知ることが出來ない、この外先生の大著述は晚年の閑暇によつて出來たものが多いようです、されば先生の晚年の失意が我々に向つて大變な賜を遺された所以でありましよう。

大分暗くなつて參り講演の筋書も、諸君の顏も見えませぬからしてモウ止めませう、止めませうが、最後に今一つ申して置きます、それは何であるかと云ひますと、我々が先刻列擧しましたように、他の學者の方々と同じく白石先生は第一流の人物として賞贊することを辭せないのであります、併しながら之を直ちに少年子弟の模範的人物にすると云ふこ

とに就ては少し注意を加へなくてはならぬ、と云ふのは仁齋先生の眞似をしても瑕物は出來はしない又藤樹先生を直に子供の手本として示すことに就ても心配は入らぬ、けれ共白石先生に至つてはさうでない、先生は恰かも千手觀音の如くまた章魚の如く手や足が多く何の方面にも偉い人であります、尋常人には決して學び得べきではありませぬ、若し之を學ばうとしたならば所謂虎を描かんとして却て猫に類するものになるの虞がないではない、白石先生の如き非凡の人となり得る素因ある人のみが、之を模することを希ふべきであります、白石先生全體を通常の人の手本とするには餘り高い人間であります通常の人はたゞ先生の或る一隅若くは二隅を模すべきである、是に於て白石先生の愈々偉大なる人物であるを知ると云ふことを申上げて今日の贈位紀念の講演を了ることに致します。

閉會の辭

帝國教育會長　辻　新次君

今日茲に帝國教育會が主催となりまして贈位先哲の爲めに祝典大會を開催しました諸君御覽の通り此盛大の有樣を見ることに至りましたのは全く今日此處に於て追頌いたしました、諸先哲の國家に盡されたる所の功績と其學德とに依り此盛大を來したものと思ひます、併し又今日此會の爲めに諸先生が御出席下され種々有益なる御演說を下されましたことも大に此盛大をなしましたことでありますから今日御演說下されました諸先生に對して厚く謝意を表します、尙ほ又今日追頌いたしました諸先哲の後裔の方々に御出席を乞ひました所が多數御出席を得本會の誠に光榮といたします所であります、併し右御招待は申上げましたけれ共甚だ御粗末千萬でした此事は一應御斷り申上げます、將又今日の盛大は此會の

名譽委員並に諸係り諸君の御盡力に依りましたことでありますから是又帝國教育會を代表して厚く御禮を申上げます、尙ほ終りに今日御來會の諸君に對しても甚だ不行屆千萬でありました是もお斷りを申上げます、是で閉會にいたします。

六大先哲　終

明治四十二年九月十四日印刷
明治四十二年九月十七日發行

正價金五拾錢

著作者　帝國教育會　東京市神田區一ツ橋
發行者　辻本卯藏　東京市神田區猿樂町貳番地
印刷者　渡邊八太郎　東京市牛込區榎町七番地

印刷所　日清印刷株式會社

不許複製

六大先哲

發行所　東京市神田區猿樂町貳番地
振替口座壹貳壹壹壹
電話本局三四三二番
弘道館

有爲の青年必ず本書を讀め

帝國教育會編

吉田松陰

菊判形 全壹冊

新刊

學習院長 陸軍大將 伯爵乃木希典君
文學博士 井上哲次郎君
東京高等師範學校長 加納治五郎君
帝國教育會長 男爵辻新次君
三島毅君
德富猪一郎君
根本正君
講述

吉田松陰に關するの書既に頻々として世に出でたり何故に本館は更に本書を出版したるか。

▼本書は帝國教育會主催五十年紀念大祭に於て現に吉田家に秘藏の各種文書遺墨を集め且つ松蔭の生前親しく私淑したる人々の實談直話を以て編著せられたるなり。

▼故に本書は坊間ありふれの形式的傳記に非ずして眞に松蔭其の人の英風偉負に接するの感あらしむ。

▲本書は帝國教育會が特に教育上の好資料たらしめんが爲め最正確にして最興味ある著書として之を世に公にせられたるものなり。

弘道館出版書目

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 井上哲次郎先生著

賜覽天

倫理と教育

再版

◎洋裝菊判上製
◎紙數六百三十餘頁
◎正價金壹圓五拾錢

△博士が精透の意見、温健の說を知らんと欲するものは本書に來れ

東京第一高等學校長 農學博士、法學博士 新渡戸稻造先生著

歸雁の蘆

拾貳版

◎洋裝頗る美本函入
◎挿畫十數葉挿入
◎正價金壹圓

△學生、教育、宗教家諸君紳士淑女諸君の必讀書◎破天荒の歡迎

東京高等師範學校講師 亘理章三郎先生著

少年鑑

再版

◎洋裝菊判頗る美本函入
◎木版寫眞版挿畫壹百個
◎正價金壹圓七十錢

盛岡高等農林學校長 農學博士 玉利喜造先生著

實用倫理

新刊

◎洋裝菊判上製全一冊
◎紙數四百五十餘頁
◎正價金壹圓五拾錢

△修身教授の絕好參考書、學生諸君の最良修養書

發行所 東京神田區錦町壹壹貳 振替口座壹壹貳壹壹 弘道館

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 元良勇次郎先生著

心理學綱要

七版

△本書は如何に世の歡迎を受けてあるか賣行の驚べく迅速にても知れ

◎洋裝菊判全一冊
◎紙數三百卅頁
◎正價金壹圓

東洋大學國學院大學講師 文學士 紀平正美先生著

最新論理學綱要

三版

△世評論理學書中の泰斗なりと本書は一時速成の著にあらず

◎洋裝菊判全一冊
◎紙數三百餘頁
◎正價金壹圓

東京帝國大學農科大學教授 理學博士 石川千代松先生著

進化論的動物學綱要

新刊

△動物研究に志すものは必ず本書より始めよ

◎洋裝菊判上製
◎挿畫木版密畫七十餘個
◎正價金壹圓參十錢

文學士 北澤定吉先生著

哲學史綱要

三版

◎洋裝菊判上製
◎紙數三百六十餘頁
◎正價金壹圓

發行所 東京神田區猿樂町貳壹 振替口座壹壹貳壹壹壹 弘道館

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 福來友吉先生譯

教育心理學講義

再版

△教育心理活用の唯一指針

◎洋裝菊判全一冊
◎數三百餘頁
◎正價金壹圓

文部省視學官 東京女子高等師範學校教授 兼槇山榮次先生著

教育教授の新潮

七版

△本書は教育教授の理論幷に實際に對する卓新の新聲也

◎洋裝脊皮上製
◎紙數八百餘頁
◎正價金貳圓

東京帝國大學文科大學助教授 東京高等師範學校教授 文學士 吉田熊次先生著(增訂第七版)

系統的教育學

七版

△教育界の明星出現

◎洋裝菊判上製
◎紙數八百餘頁
◎正價金貳圓

文學士 北澤定吉先生著

倫理學史綱

附錄 倫理學者年表一冊

△倫理研究者の燈火○文部省檢定受驗者の絶好參考書

◎洋裝菊判上製
◎紙數四百餘頁
◎正價金壹圓卅五錢

發行所 東京神田區猿樂町貳壹 振替口座壹壹貳壹壹壹 弘道館

文部省視學官兼農科大學教授　農學博士　澤村眞先生著

農業教授法講義

◎洋裝菊判全一冊
◎挿入密畫製圖十八葉
◎正價金壹圓拾五錢

東京高等師範學校東洋大學、日本大學講師　文學博士　遠藤隆吉先生著

東洋倫理學講義

◎洋裝菊判上製
◎紙數約四百頁
◎正價金壹圓五十錢

農科大學教授　農學博士　本多靜六先生增訂
奈良縣立農林學校教諭　農學士　安藤時雄先生著

林學講義

◎洋裝菊判上製
◎紙數約四百頁
◎正價金壹圓五拾錢

農學博士　澤村眞先生著

農藝化學講義

△極めて實際的に應用的の好著

◎洋裝菊判上製
◎紙數四百五十餘頁
◎正價金壹圓三拾錢

發行所　東京神田區猿樂町貳壹　振替口座壹貳壹壹壹　弘道館

理學博士　田中正平先生校　理學士　田邊尚雄先生著

理學叢書

音響と音樂

△出版界の珍書音響學著述の嚆矢

◎洋裝菊判全一冊
◎挿畫木版密畫七十個
◎正價金八拾錢

陸軍砲工學校教授　理學士　石原純先生著

理學叢書

美しき光波

△興味ある理科教授をなさんとするものは必ず讀め

◎洋裝菊判上製全一冊
◎挿畫百三十九個
◎正價金壹圓五拾錢

京都大學理工科大學助教授　理學士　柏木好三郎先生著

理學叢書

重力と彈力

◎洋裝菊判全一冊
◎挿畫木版密畫寫眞版六十餘個
◎正價金壹圓五十錢

陸軍教授　理學士　淺野肇先生著

理學叢書

電氣と磁氣

◎洋裝菊判全一冊
◎挿畫木版密畫寫眞六十個
◎正價金壹圓五十錢

發行所　東京神田區猿樂町貳壹　振替口座壹貳壹壹壹　弘道館

片假名信號體操

附二分間體操

海軍教育本部海軍中佐 眞田鶴松先生校閲 弘道館編輯部編纂

四六判頗る美本 挿畫百餘個挿入 正價金拾貳錢 送料金貳錢

日本教育の將來

（賜天覽）

樞密顧問官 男爵 金子堅太郎先生著

▲教育家諸君の一讀を望む▼

菊判形全一冊 正價金貳十錢

言語講話

（修正參版）

東京高等師範學校教授 東京帝國大學文科大學助教授 文學士 保科孝一先生著

▲言語學の一班を平易懇切に說明せられたるもの▼

總布製全一冊 正價金八拾五錢

改定假名遣要義

文學士 保科孝一先生著

▲改正の理由、性質、及び如何に教授上に應用すべきかは本書により明らかなり

菊判全一冊 正價金四十錢

通俗科學講演集

講演者 理學博士 石川千代松先生 高等師範 後藤牧太先生 農學博士 横井時敬先生 理學士 川村清一先生

菊判頗る美本 全一冊 挿畫數十個 正價金六十錢

國運と信仰

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 姉崎正治先生著

▲博士最近數年間の大論文集めたる者▼

洋裝總布全一冊 正價五百九十餘頁 郵稅金十壹錢

偉人耶蘇

文學士 北澤定吉先生著

▲著者の倫理教育宗教に關する意見を叙して俗學者俗宗教家教育家の頭上に痛擊を加へしもの

菊判全一冊 正價金五十錢 送料六錢

最新哲學實際主義

米國ハーバート大學教授 ゼームス博士原著 北澤文學士、吉田文學士、西山悲治合譯

菊判形全壹冊 三百餘頁

（原名プラクマチズム）

ゼームス氏の序文並に寫眞挿入

文學博士 遠藤隆吉先生著

虛無恬淡主義

菊判形全一冊 正價金四十錢

文學博士 井上哲次郎先生序 秋山悟庵先生編纂

名家論叢 **現今宗教問題**

四六判形全一冊 正價金五十錢

文學博士 遠藤隆吉先生著

社會學研究

第壹編 **發音と表情**

菊判全一冊 正價拾五錢

同 第貳編 **社會情調と教育**

菊判全一冊 正價拾五錢

同 第二編 **社會心理の研究**

菊判全一冊 正價貳十五錢

同 第四編 **發音情調**

菊判全一冊 正價拾貳錢

以下隔月壹卷宛發行 現代新思潮に接觸せんとする士は讀め

發行所 東京神田區猿樂町貳番壹號 振替口座壹貳壹壹番 弘道館

東洋大學講師 文學士 北澤定吉先生 宮地猛男先生共譯

哲學汎論

菊判形全一冊 正價金五拾錢

▲哲學研究者の好案内也!!

▲初學者には好個の參考書也!!

東京小兒科病院長 醫學博士 瀨川昌耆先生校 福岡縣立小倉師範學校長 織田勝馬先生 長崎縣立長崎高等女學校教諭 白土千秋先生 共著

劣等生救濟の原理 并に方法

洋裝菊判全一冊 正價金六拾錢 (第六版)

▲我邦低能兒教育主張者の嚆矢

廣島高等師範學校教授 吉田信太先生作曲 廣島高等師範學校教師 原藤藏先生作技

國定讀本 **唱歌遊戲教授書** (第八版)

洋裝總布製 美本全一冊 正價金各冊八十錢

◎尋常科用全一冊◎高等科用全一冊

長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生 福岡縣立師範學校教諭 阿部清見先生 共著

國定準據 **算術教材資料**

洋裝菊判全二冊 正價金壹圓拾錢

發行所 東京神田區猿樂町貳番壹號 振替口座壹貳壹壹番 弘道館

綴方教授法精義

四版

廣島高等師範學校訓導 藤井慮逸君
廣島高等師範學校訓導 久芳龍藏君
廣島高等師範訓導 廣島高等師範訓導 内藤岩雄君 新國寅彦君 共著

本書は心理的なる事、系統的なる事、調和的なる事

◎洋裝菊判全壹冊上製
◎紙數五百頁
◎正價金壹圓五拾錢

中等農學教科書

奈良縣師範學校教諭 中川壽照先生著

理想的師範學校用農業教科書

◎上中下全三冊
◎正價各冊五十五錢

補習新讀本

文部省視學官農學士 針塚長太郎先生
農科大學教員養成所講師 矢田鶴之助先生 共著

農村適用

◎前編 ◎全三編 ◎後編 ◎續編
◎前後各貳十五錢 ◎續編二十五錢

國民生活と宗教

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 元良勇次郎先生
文學博士 中島力造先生
文學博士 三宅雄次郎先生
法學博士 浮田和民先生
文學博士 福來友吉先生
文學博士 加藤玄智先生
文學博士 吉田熊次先生
文學博士 有馬祐政先生 共著

◎菊判形全壹冊
◎正價金六十錢

發行所 東京神田猿樂町貳番 電話本局三四三貳番 弘道館

曉鐘集

文學博士 芳賀矢一先生監修。東亞協會文藝部編纂

四六判形頗る美本
紙數四百餘頁
正價金八拾錢

日本家庭辭書

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 元良勇次郎先生
文學博士 井上圓了先生
下田歌子女史序
文學博士 西山愚治編纂
（中村不折挿畫）

▲家庭末代の寶典▼

洋裝四六判頗る美本
七百三十餘頁
正價金壹圓三拾錢
郵稅金拾五錢

新案育兒日誌

東京女子高等師範學校教授 東基吉先生編著

洋裝四六判全一冊
上等數四百五十餘頁
正價金四十錢送料八錢

特製脊皮正價金五十錢 並製總クロース

▲子ある家庭には必備の寶典▼

倫理學精義

早稻田大學講師 文學士 藤井健治郎先生新著

洋裝菊判形上製
紙數約六百頁
正價金

▲最も穩健にして最も斬新なる學說を聽かんとせは先づ劈頭本書を繙け。
▲舊刊陳套の倫理學書に飽きたる者須らく本書を讀め。

發行所 東京神田區猿樂町貳番 振替口座壹貳壹壹壹番 弘道館

司法省參事官法學士 泉二新熊先生校 法典研究會編纂

新刑法 新刑法施行法 新監獄法 正解

附錄 改正陸軍刑法 改正海軍刑法正文

四六判形三百餘頁 正價金五拾錢 郵稅八錢

▲我邦國民は何人も一讀せざるべからざる法典▼

法學士 笹川潔先生著

日本の將來

菊判形全一冊 正價金六十錢 郵稅金六錢

▲我政治經濟社會及思想の將來に對する大議論▼

▲我日本の將來は如何に成り行くか▼

法學士 笹川潔先生著

大觀小觀

菊判形全一冊 正價金四十錢 郵稅金六錢

▲時に國家を提醒し社會を鞭撻し或は人事を觀じ或は自然を謳ふ理趣あり、情景あり以て修養に資すべく又文章の範とすべし。

學海隱士著

成功秘訣 受驗術

袖珍菊半截形 正價金三拾錢

▲受驗者の手引草受驗の秘奥を闡明せしは本書也と▼

發行所 東京市神田區猿樂町貳 振替口座壹貳壹壹壹番 弘道館

德川慶喜公 東久世通禧伯題辭 古今堂主人著

今日の歴史

洋裝菊判上製全一冊 插畫約百個紙數四百餘頁 正價金

▲健全なる家庭の好伴侶、子弟訓育の絶好寶典也。

京都帝國大學文科大學助教授文學士 朝永三十郎先生著

人格哲學と超人格の哲學

洋裝菊判上製全一冊 紙數四百餘頁 正價金

▲深邃なる哲理を平易に說けるもの何人も一讀了解し得。

浦谷熊吉先生著

教育適用

俚諺心理百話

洋裝三六判全一冊 紙數約二百餘頁 正價金

▲俚諺に通俗なる心理的說明を與へたるもの子弟訓育の寶庫。

廣島高等師範教諭 藤井慮逸先生 廣島高等師範訓導 久芳龍藏先生 廣島高等師範訓導 內藤崇雄先生 廣島高等師範訓導 新國寅彥先生 共著

綴り方文例

尋常科 二三四五六年用 高等科男女各一二三年用 (小學校兒童用)

▲活用し得ざる智識は智識にあらず。

發行所 東京市神田區猿樂町貳 振替貯金口座壹貳壹壹壹番 弘道館

日本女子大學教授 白井規矩郎先生新著

歐米最新 **女子運動と遊戯**

▲斬新なる運動遊戯の出顯は實に現今教育界の渇望也。

洋裝美本全一冊 紙數壹千餘頁 正價金壹圓

家庭學校長白井悅子女史著

簡易 **西洋料理貳百種**

▲低廉なる材料を以て滋養に富み、風味良好き料理法を求めんとならば本書を讀め孃ちやんたちにも直に試みらるゝ樣に懇切に說明せるは本書なり。

四六判美本全一冊 口繪挿畫數十個 正價金五十錢

學習院教授 東京女子高師教授 文學士 尾上柴舟先生著

永日

▲先生得意の詠歌三百餘首を集錄す斯學研讀の好指南車。

挿畫 中澤弘光君 山本森之介君 岡野榮君

四六判形洋裝頗る美本 全一冊正價金

學習院教授 文學士 藤澤周次先生譯

戲曲 **新婦人**

▲本篇は實に近世的問題劇で新舊思想の衝突を描いたものである、且つてはズウデルマンの最傑作として空前の歡迎を受たるもの、譯文溫健流麗。

四六判形上製美本全一冊 正價金

發行所 東京市神田區猿樂町貳 振替貯金口座壹貳壹壹壹番 弘道館

文學博士 遠藤隆吉先生編

日本社會研究所論集第五編 **教育國家的建設** 附錄 自殺論

▲所說穩健にして引證の該博なる教育家以外の人士に取りても大に傾聽すべき者。

菊判形全一冊 正價金貳拾錢

文學博士 遠藤隆吉先生編

日本社會研究所論集第六編 **社會學稿本** 附錄 自殺論

▲社會學の一二書、日本に於ける迷信、文化の統計的研究等を載す。

菊判形全一冊 正價金貳十錢

文學博士 遠藤隆吉先生編

日本社會研究所論集第七編 **硬教育と軟教育**

▲斯學の眞髓を穿てるもの言々句々皆金玉。

菊判形全一冊 正價金三十錢

文學博士 井上哲次郎先生主幹 東亞協會編

倫理研究

▲井上、三宅、中島、松本、谷本、吉田、北澤、深作、藤井、大島、小林等斯界名家の論文二十有六を集む倫理研究者諸君の燈明臺。

菊判形全一冊 正價金

發行所 東京市神田區猿樂町貳 振替貯金口座壹貳壹壹壹番 弘道館

弘道館出版書目

釋宗演禪師新著
筌蹄錄

▲師が多年の蘊蓄を傾倒したる金玉にして心靈界の論說貳拾篇を集む。文章平明。

洋裝美本函入全一冊
正價金八拾錢

東京帝國大學文科大學講師 文學士 小林一郎先生譯述
らすきん氏 讀書論

▲社會問題も敎育問題も處世論も文明論も盛んに出て居る。稀有の珍書！

菊判形全一冊
正價金五拾錢

帝國敎育會編（谷子爵、井上博士、三上博士、三宅博士、大槻博士、南摩。竹內氏の講述）
六大先哲

▲山鹿素行。山崎闇齋。中口藤掛。伊藤仁齊。新井白石。青木昆陽。

四六判形全一冊
印刷中

帝國敎育會編（乃木大將、井上博士、加納、三島、德富、根本、辻男爵の講述）
吉田松陰

▲坊間ありふれたる形式的傳記に非す親しく松陰其人の英風偉貌に接せしむ。

四六判形全一冊
印刷中

發行所 東京市神田區猿樂町貳 弘道館
振替貯金口座壹貳壹壹壹番

17.

328
34

328
34
Ⓜ

009050−000−0

328−34

六大先哲

帝国教育会編

M42
AAD−0233